

日本計量生物学会

ニュース・レター No.12

1984年4月

目 次

Contributed paper の重要性について
(林 知己夫)

1984年度大会案内

年会プログラム

XII IBC

第1回組織委員会幹事会議事録

第2、3回総務部会議事録

第2、3、4回募金部会議事録

第1回展示小委員会議事録

日本計量生物学会理事会議事録

国内学会、国際学会を問わず、大きな主題を掲げて中心テーマにしたり、invited セッションを重視して開催する傾向が見られるが、私は好ましくないのではないかと考えている。漠然と開いていたのでは計画性がない、だらしない、学問振興に熱心でないように見えるので、恰好をつけるために流行しているのではない。しかし、計画を基礎的研究の分野で重視することがそんなに好いことなのか、私は疑問に思っている。新しい科学の発展は、過去の進展の延長線上に見出せるものはすくない。自由な発想の下におこった — つまり当該分野の伝統的見方からみれば意外性と言えよう — ことが次第に発展し、展開してくる場所に生じてくるものである。

私は、学会がいくつかの invited セッションを設けたり、特別講演を計画したりして、当面重要であり、発展しつつあるトピックとなっているものを取上げるのはよい。しかし、本命はあくまでも自由な研究発表にあると思っている。有体に言えば、この玉石混淆であ

会 長

林

知 己 夫

Contributed paper の重要性について

る contributed paper のセッションに、この意味でより重要さがあるのである。この中に、これまでにない新しい科学の発展の萌芽が見出されることがあるわけで、この意味で、この session を大事にしなければならない。

今年は、International Biometric Conference が東京で開かれる年である。14の invitedセッションがある。Biometric Society のプログラム委員会が知恵を絞って取りあげたもので、今日的意味が十分あるものである。この主題のセッションの中に面白いものが期待されるのは当然のことであるが、新しい計量生物学の萌芽が contributed papers の中に見出されることを待望してやまない。日本人の発表の中にも、外国人の発表の中にも。

国際会議の実施は、少くとも日本では、多くの人々の万般にわたる多大の努力を必要とするものである。多くの人々が参加し、意義あるものになることを念願している。

1984年度日本計量生物学大会

日 時 1984年4月20日(金) 9:30~16:20

場 所 統計数理研究所

年会プログラム

一般講演 I 9:30~10:10

9:30~ 9:50 竹内 淳 点配置のランダムネス検定について
椿 広計(東大・工)
広津 千尋

9:50~10:10 田崎 武信(塩野義 薬物の構造活性相関の統計的側面
後藤 昌司 解析センター)

休 憩(10分)

特別講演 I 10:20~11:20

10:20~11:20 長谷川政美(統数研) DNA配列データから系統樹を推定する
ための最尤法

総 会 11:20~12:10

昼食休憩(60分)

特別講演 II 13:10~14:10

13:10~14:10 飯淵 康雄(琉球大・医) 中世期日本における統計的概念形成の初
歩的存在と明治中期の統計学論争

一般講演 II 14:10~15:10

14:10~14:30 有田清三郎(川崎医大) R I A データの直線回帰分析
14:30~14:50 太田 邦昌 相関か確率か? 遺伝学と社会学におけ
るいくつかの量の定義とその応用
14:50~15:10 増山元三郎(東京理大・理) ほぼ単一母数仮説の代謝回転への応用
緒方 宏泰

休 憩(10分)

一般講演 III 15:20~

15:20~15:40 鵜飼 保雄(農業生物資源研) 自殖性2倍体植物における染色体乗換頻
度による固定世代と連鎖ブロック長の変
化
15:40~16:00 塩見 正衛(草地試) 放牧草地における草量の空間分布
16:00~16:20 松永 隆司(食総研) 平面形態の回転不変な数量化と食品の平
均形態

第12回国際計量生物学会議 第1回組織委員会幹事会議事録

日 時：昭和59年3月2日（金） 17:00~19:30

場 所：統計数理研究所

配布資料：○昭和59年3月2日現在の登録者、アブストラクト投稿状況表

○会議準備費・会議費 日本学術会議負担分内訳

○展示会（商業・学術）出品要綱

出席者：林、奥野、竹内、菱沼、浅井、大橋、島津、正法地、鈴木、椿、長谷川、鳩山、広崎、山本

（学術会議事務局）安達係長、山本係員／栗原、末益、吉田

議 事

1. 経過報告

奥野総務幹事より、Biometric Society 本部との通信報告がされた。

- 1) セッションの日程を早く知らせてほしい。

→3月2日（本日）の会合で決めて、知らせる。

- 2) Invited Speaker が無断で、航空券をエージェントから買わせてよいのか。

→こちらで全額を把握する必要があるので、事前に了解を得た上で、申し込んでもらう。

- 3) セカンドサーキュラーを各Regionの協会を通して配布しているので、いきわたるのが遅れているため、事前登録締切日を過ぎても、登録料は30,000円を適用してほしい。

→特にいつまで延長するというアナウンスはしないが、まだ当分の間は30,000円で受付ける。

- 4) Invited Paper の Full Paper は誰が集めるか。

Authors' Kit はどこから送付されるのか。

→Full paper のオリジナルは、日本に、コピーを Solomon 氏とセッションチェアマンに送付する。Authors' Kit は、日本から各人に送付する。Full paper を送付しないと Invited Speaker には旅費の援助しない旨注意する。

- 5) 新しく就任した Daguelie 会長から、Administrative Committee の日を決めたいので、セッション日程を早く決めてほしい。

開会式では誰が、何について、何分講演するかを教えてほしい。会長自身が、講演を希望している。

→開会式での講演については未定だが、会長の講演は認めるので、所要時間を教えてほしい。

- 6) Executive Committee のメンバーと Invited Speaker の登録料は、慣例では、免除されるが、今回は免除されないのか。

→旅費の援助額が今までより多いし、登録処理が繁雑になるので、登録料免除は一切認めない。

2. 登録・アブストラクト投稿状況（昭和59年3月2日現在）

- 1) 登録者 日本人：53人 外国人：59人（16ヶ国）

アブストラクト提出数 日本：50件 外国：105件（26ヶ国）

発表希望件数 日本：84件 外国：203件(28ヶ国)

3. プログラム・会場

- 1) 発表希望件数は現在287件で、アブストラクトが250件投稿された場合、会場が一杯になる。

所要時間

Invited Paper Session 90分×14セッション=1,260分

Contributed Paper Session 20分×250題 =5,000分
6,260分

6,260分÷4会場÷4日=390分/日

- 2) 好ましいスケジュールとして下記のスケジュールが提案され、認められた。このスケジュールに従い、月・火・木・金の4日間、2つの部屋を1日借りることとなった。

Morning Session 9:00~10:30 10:50~12:20

Afternoon Session a) 14:00~15:30 15:50~17:20 計360分(1日借りる部屋)
b) 14:00~16:00 計330分(半日借りる部屋)

- 3) 開会式は花ABCの部屋を使用することになっているが、出席者が750名になれば、花ABCは天井も低く、柱も多いので、エミネンスに変更する。
- 4) 上記2)、3)の変更による予算の増額については、学会の方で負担する分には、問題はないという説明が、学術会議よりあった。但し、実行予算として、会場費の全体予算を学術会議に提出する。
- 5) セッション構成については、現在まだアブストラクトを受付中であるので、まとめ次第プログラム委員会を開いて決定する。

4. 印刷

- 1) 印刷物のうち、日本学術会議負担(海外配布分のみ)のAdvance Programの見積を早急に出す。Contributed Paper 250件、Invited Paper 30件として、頁数を見積る。Invited Paper SessionにはOrganizerの名前を入れる。Contributed Paper SessionのChairmanの名前はまだ入れない。
- 2) 所要経費概算では、プロシーディングスも2色刷とする。800部となっているが、それぞれ1,000部印刷する。
- 3) アブストラクト集(Contributed Papers)とプロシーディングス(Invited Papers)の両方を会場で渡す。
- 4) プロシーディングス及びアブストラクト集のextra copyの販売についても計画する必要がある。
(登録しない人たちへの販売、登録者extra copyの価格等)

5. 展示

- 1) 展示の出品要綱について説明があり、承認された。
主催は、組織委員会でもまだ認められていないので、運営委員会とした。
- 2) 独立採算予算は、約400万円である。
- 3) 商業展示に現在出品する目途がついているのは、SAS、BMDP、オデッセ、日科技研、IBM、日電、ユニパック、YHPである。他に国内のパーソナルコンピューター会社が有力である。
- 4) 学術展示は、統数研、慶応大学の原先生の出品がある見込みである。

- 5) フランスの穀物と牧草の研究所より、スライドの映写、販売希望の手紙が届いた。販売を目的にしているようなので、あいている会場を貸して、会場費並びに器材費等の実費を払わせてもよいのではないか。または、商業展示会に含めて、小間代をとってもよいのではないかという提案があった。とりあえず、有料の旨、返事を書く。
6. 募 金
大蔵省より、免税募金の許可が昭和59年2月4日付でおりた報告があった。
7. その他
 - 1) 外国人参加者の国立大学での講演に対する文部省からの援助(旅費と謝金)について、約10名が認められるはずであるという説明が学術会議よりあった。
訂正リストを連休明けまでに学術会議に提出する。
 - 2) 幹事会を今後月1回、開催する。
次回は、4月20日(金)、17:00~
— これは、4月19日18:00~に変更された。

第2回総務部会議事録

I. 日 時 1983年12月9日(金)
15:00~17:00

II. 場 所 東京理科大

III. 出席者 奥野、浅井、井山、大橋、佐久間、
正法地、鈴木、竹内、椿、長谷川、
嶋山、山本/栗原、末益

IV. 議 事

1. 準備経過報告

a. Invited speakers への旅費補助原則について

- ① 米国東海岸40万円、欧州40万円、インド25万円等地域別に基本額(グループツアー費用+若干の滞在費)を設定してSolomonへ知らせた。支払い方法としては、JTBまたはその関連エージェントのパッケージツアーを利用する場合は、事務局から直接エージェントに支払う。個人でアレンジして来る場合は会場到着時に現金(日本円)で支払う。
- ② Invited speakers に対しては従来登録費は免除されていたとSolomon氏及びTull氏から問合せがあったが、今回は十分の援助をするのだから、ルールとして支払ってくれるように返事した。

b. second circular 発送状況

各 region の secretary あては計6,145部(内、1,525部は学術会議から) request のあった個人には海外193部(学術会議から)、国内125部を12月6、7日に発送した。

c. Authors' kit 発送状況

11月18日に海外138件、国内63件計201件を発送、その後もリクエストに応じて発送している。

2. コンピュータ・デモンストレーションについて
会期中にコンピュータおよびソフトの展示が毎回なされているが、日本のメーカーはソフトの面で弱いので、可能性を検討するため、総務部会の中に展示委員会を発足させる。委員長: 開原成允、委員: 浅井晃、大橋靖雄氏とする。ほかに日科技研センター矢島敬二、関氏にも協力を依頼する。

3. 委員会出席旅費について

組織委員会が発足したから、委員会出席旅費が支払える。そのため、必要ならば、各大学あてに委嘱状を出す必要があるかを論じたが、一般には必要でないことがわかった。

4. 小委員会の設置について

総務部会に次の専門委員会をおくことをきめた。

社交・行事—◎長谷川、嶋津

会 場 —◎佐久間、正法地

展 示 ー上記のとおり

各専門委員会の任務と作業スケジュールを作成するようICSに依頼した。

5. サテライト・ミーティングについて

IBCの前後にサテライト・ミーティングを計画したいという話があるので、プログラム委員会で検討してもらう。そのスピーカーの滞在費を負担できるか否かは募金の集り状況にもよるので今後検討する。

6. 国内Invited speakersの処遇について

海外からのspeakerには旅費の補助が出るのなら、国内のspeakerにも何らかの援助をせよとの提案があった。地方の人には文部省から旅費を出してもらえが、東京の人には何もできない。それはあとで考えることとして登録費の免除はしないことにきめた。

7. その他

会場借上費の見積りを詰めねばならないが、Contributed paperの集まり具合が判明する1月末まで待つより仕方がない。

第3回総務部会議事録

I. 日 時 1984年1月23日(月)

16:30~18:30

II. 場 所 東京理科大

III. 出席者 奥野忠一、浅井晃、井山審也、佐久間昭、正法地孝雄、鈴木茂、椿広計、長谷川政美、鳩山由紀夫、広崎昭太、山本俊一、栗原恵美子、末益牧子、藤江温

IV. 議 事

1. The Biometric Society 役員の登録料について — 従来は免除していたようであるが、Local organizing committeeは免除しない方針であると伝えた。Society が負担する場合もまず個人で払込んでもらうように伝えた。
2. 会計報告 — 奥野幹事より現在までの支出状況は予算の範囲内におさまっており、今後募金が順調に進めば、Satellite meeting に若干の援助ができるかもしれないとの報告があっ

た。

3. 各委員会の今後のスケジュールについて(ICS案に基づく)

①プログラム委—Invited papers (full paper)とContributed papers (abstract)を会場で配布するが、会議後にプロシーディングを出す必要があるか否かを本部に問い合わせる。

②社交・行事委—ICSから藤江氏が出席されたが、費用負担の原則をきめてから計画を立てる。

4. その他—記念記手の発行を考えていたが時間的に間に合わないことがわかった。

第2回募金部会議事録

I 日 時 1983年12月15日(木)

10:00~12:00

II 場 所 東京理科大

III 出席者 菱沼、小泉、飯淵、井山、奥野、開原、駒沢、佐久間、古川

IV 議 事

1. 指定(免税)寄付金の申請について
日本学術振興会より12月12日付で大蔵省へ申請した。1月中には許可がおりるであろうから「募金趣意書」などの印刷をはじめめる。
2. 募金分担について
経団連からもらった割付表にもとづき、各委員にコネのあるところを分担して頂く。
12月決算の会社で12月中に寄付してもらえる場合には一旦受取ってあとで指定寄付に変えることができるかどうか検討した。
3. 万博記念協会への寄付依頼について
菱沼委員長が2月中に大阪まで依頼に行き、頂く。
4. その他
 - a. コンピュータ・ソフトの展示をやる方向に進んでいるので、それが実現すればそちらからも寄付をもらえるようにする。
 - b. Solomon氏からinvited speakersの旅費補助について1,400万円を確保するよう要

請してきているので、「従来の1,200万円以上」というのを「1,400万円にする」という返事に変えるのは致し方ないという結論になった。

第3回募金部会議事録

- I 日 時 1984年2月6日(月)
15:30~17:00
- II 場 所 東京理科大
- III 出席者 菱沼從尹、飯淵康雄、井山審也、
太田邦昌、奥野忠一、駒沢勉、佐久間昭、林知己夫／栗原恵美子、石井誠一、末益牧子
- IV 議 事
1. 募金の進行状況について審議した。
 2. 指定(免税)募金の許可がおりたことが2月4日付の官報にのった。

第4回募金部会議事録

- I 日 時 1984年3月17日(土)
10:00~12:00
- II 場 所 東京理科大
- III 出席者 菱沼、林、奥野
- IV 議 事
1. 募金状況について
 - ① 金融界は菱沼委員長が一人でまわっているが、去年一通り頼みに行ったときから担当者が変わっているところがあり、再度説明しなければならなかった。60%位しか期待できないところが多い。5、6月頃に決定するというような返事をもらっている。
 - ② 日本百貨店協会は佐久間先生から紹介を得たので、この日の午後菱沼、奥野が高島屋診療所の玉川先生を訪ねた。そのあと同協会の専務理事を菱沼氏が訪ねて依頼した。またアロカ株式会社も玉川先生から紹介していただいた。日本チェーンストア協会も当たったが無理かもしれない。
 - ③ 日本製薬団体連合会は菱沼氏の努力で額が

決定した。

- ④ 日本電機工業会、電子機械工業界は林があたる。
 - ⑤ 日本鉄鋼連盟、日本鋁業協会、石油連盟、自動車工業会は奥野があたる。
 - ⑥ 日本化学繊維協会、紡績協会は古川があたる。
 - ⑦ 日本油脂協会、船主協会も林があたる。
 - ⑧ ビール協会は菱沼、板硝子協会、不動産協会は駒沢があたる。
 - ⑨ その他それぞれに分担をきめて精力的にまわることにした。
2. 万博記念協会の寄付について
菱沼委員長が2月に細川理事長に依頼に行かれたが、好意的であったという報告を受けた。その後満額(400万円)決定の通知を受けた。ただし、これは外国人招待旅費に使用するとの条件がついている。

第1回展示小委員会議事録

- I 日 時 昭和59年1月23日(月)
19:00~21:00
- II 場 所 東京理科大
- III 出席者 浅井晃(小委員長)、開原成允、
大橋靖雄(以上小委員会委員)
奥野忠一、鈴木茂、正法地孝雄(以上総務小委員会委員)
- IV 議 事
- コンピュータ関連のデモンストレーションに関して以下の事項を決定した。
1. デモンストレーションを開催する。タイトルを data processing exhibition とする。
 2. 会期は9月4日(火)~9月7日(金)の4日間とする。ただし、準備と整理のため9月3日(月)と9月8日(土)も室を確保する。
 3. 開催の基本方針を以下の通りとする。
 - 独立採算制を原則とする。すなわち徴収する出店料をIBC本会議開催のための新たな収入源とは考えないが、会場費はペイするようにする。
 - 科学展示とコマーシャル展示の両者を行なう。

科学展示については、展示に併う実費を負担してもらう（ただし、会場費は除く）ことを原則とする。

コマーシャル展示については、全体として独立採算制が成立するように、一コマの出店料を決定し、それを徴収する。

科学展示はノンプロフィットなものに限り、出店者は会議に登録することを原則とする。

また、1日あたり最低2時間の説明時間を設けることを出品の条件とする。

- 原則として、モノ（実体）があってそれが稼働することを出品の条件とする。具体的には以下のものを展示の対象とする。

- ① 統計、データ解析 ソフトウェア
- ② 現在あるいは将来、計量生物学研究に有用であろう情報処理機器
- ③ 計量生物学関連のデータ・ベース

- 本会議と同様、公用語は英語とする。したがって日本国内からの出品については、タイトルを英語とし、また英語の簡単な説明文を用意することを出品の条件とする。

4. 開催のために必要な事務処理はICSにお願いする。またアドバイザーとして日科技研に協力を依頼する。
5. 3の主旨を踏まえた開催案内通知（日本文・英文）の案をICSに至急作ってもらう。同時に費用・基本コマ料（基本コマは2坪とする）の見積りも出してもらう。なお開催通知の発起人は小委員会長の浅井教授として、事務局をICSにおくことにする。開催の主旨などの問い合わせ先を大橋にする。
6. 開催案内通知の発送先のリストは、日科技研と大橋が相談して作成する。
7. 2月上旬にICS、日科技研、大橋の3者で会合を持ち、役割り分担を明確にし、作業日程などを確認する。

（その後、案内状を作成し、3月2日の幹事会で御承認いただいた。また、日科技研の御協力をいただいて送付先リストを作成し、3月半ばすぎに案内通知を送付した。）

日本計量生物学会理事会議事録

I 日 時 1984年2月6日（月）
14:00~15:30

II 場 所 東京理科大

III 出席者 林知己夫、井山審也、太田邦昌、
奥野忠一、渋谷政昭、菱沼従尹

IV 議 事

学会理事はIBCの運営委員を兼ねているので、理事会としてはずっと開かれずに来たが、4月の年会の準備のためにこの日の会合をもった。4月20日（金）に研究発表会と総会を行なうことをきめた。また、特別講演としては飯淵、長谷川両先生にお願いすることをきめた。

訂 正

前号（ニュースレター№11）のP.6に第1回幹事会議事録とあるのは、第1回総務部会と読みかえて下さい。